

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2017年 1月 15日
事業ID: 2017404802
事業名: 時間と場所に捕らわれない労働環境の実現
団体名: (一社)WorkAnywhere
代表者名: 川口良 印
TEL: 080-4050-8196
事業完了日: 2017年 12月 31日

事業費総額	7,813,653 円	(収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	2,813,653 円	(Readyfor支援金を含む)
助成金額	5,000,000 円	(千円未満は切り捨て)
返還見込み額	0 円	(収支計算書に記載する助成金返還見込額)

事業内容:

- CONTINUUMシステムの一部機能の研究開発
 - プロジェクター映像機器の選定及びオフィス内での試験(8-9月)
 - プロジェクションマッピング技術の選定及びオフィス内での試験(10-11月)
 - ホワイトライト株式会社と提携し、音響機器の選定及び試験を完了(9-11月)
 - WebRTCを使ったポータル、ダッシュボード機能のソフトウェア開発完了(9-11月)
 - SIフォーラムでのポータル、ダッシュボードデモの展示及び概念実証(10-11月)
- 報告書・プロモーションビデオ等の作成
 - 2分30秒のプロモーションビデオの製作及び公開(9月)
 - ホームページの製作及び公開(9月)
 - A4サイズ20ページの事業計画書の作成(9月-11月)
 - A4表裏カラー刷りのパンフレットの製作(2000部)及び配布(10月-11月)
- コワーキングスペース等提携団体の策定
 - コワーキングスペースco-ba及びFabcafeとのミーティング(10月)
 - フロンティアコンサルティング及び京急電鉄とのミーティング(10-11月)
- Readyforクラウドファンディングの実施
 - Readyforクラウドファンディングページの作成、公開(8月-9月)
 - Readyforページにおいて、18件の新着情報の投稿(9月-12月)
 - 合計171人、2,427,000円の支援金の獲得(11月)
 - 3度に渡るクラウドファンディングイベントの実施(9月-11月)

1.事業目標の達成状況:

【申請時の目標】

1. フリーランス・起業家等の高度専門職が大都市から地方へ移動
2. 地方の学生・若い労働者層の中で、高度専門職が育つ
3. 時間と場所に縛られない自由な労働環境の重要性について、セクターの壁を超えた認識の向上(リモートワーク等を推奨している企業の率が20%上昇)
4. 地方都市における新規ビジネスの活性化(地方におけるMothers IPO数50%上昇)
5. 地方都市におけるサービス産業の興隆(GDPが前年度に比べて成長している地方自治体の数20%上昇)
6. 地方オフィスの数・投資額の増加(地方オフィスの数20%上昇)

【目標の達成状況】

本助成期間においては、本事業の事業計画を策定すること、Readyforクラウドファンディングを完了すること、日本財団ソーシャルイノベーションフォーラム2017においてCONTINUUMデモのブース出展を行うことが主要な事業内容であり、上記目標値に変動が見られるような活動を行うことができなかった。ただ、フォーラムで展示したCONTINUUMシステムの初期デモは、本事業の概念実証の重要な第一歩であり、以降の3～5年間を通して、これらの数値目標に直接的、または間接的な影響をもつ活動、製品の開発につなげていく予定である。

2.事業実施によって得られた成果:

上でも述べたように、本助成期間においては本事業の事業計画を策定することが主要な目標であった。その点において、Readyforクラウドファンディングは始動したばかりのCONTINUUMプロジェクトにとっては目標達成の重要な触媒となった。プロモビデオ・パンフレットの製作などを通してブランディングを確立し、支援者の一部から重要なフィードバックを獲得し、チームとしても多種多様なセクターを巻き込んだ製品開発の如何が何であるか学ぶことができた。最終的には、その学びを20ページの事業計画書にまとめ、以降3年間に於けるビジネスの戦略と方向性が定まった。また、技術面でも、映像・音響機器の選定、ポータル機能、ダッシュボード機能のソフトウェア開発が進んだことで、以降の開発の目処がついた。

3.成功したこととその要因

プロジェクトが本格始動した8月からの3ヶ月という短い期間で、CONTINUUMシステムの概念実証デモを製作し、SIフォーラムという外部環境においてテストを行うことができたのは大きな成果である。通信状況と映像・音声の質の関連性など重要な学びを積むことができた。成功の要因は、クラウドファンディングやフォーラムの準備といった他の主要な事業内容とは、独立したエンジニアチームを組成できたことである。業界最先端のUXデザインスタジオ、音響製作チーム、Googleで大規模システムを開発した経験のあるエンジニアなど、限られた予算を最大限の成果に反映することができる強力なチームが9月末に始動した。

4.失敗したこととその要因

Readyforでのクラウドファンディングは、当初の予定であった第二目標の800万円には遠く届かない2,427,000円で終了した。当時、プロジェクトが事業計画策定の最中で、PR・コミュニケーションの方向性が定まっていなかったこと、構成メンバーにクラウドファンディングの経験者がいなかったこと、デモの製作など他の優先度の高い事業とのリソース配分に苦戦したことなどが要因である。しかし、クラウドファンディングを経て、外向けのブランディングが固まり、初期の研究開発の段階から多様な顧客層のフィードバックを得ることができたのは特筆すべき成果である。

事業成果物:

1. Continuum システムのデモ 1 式 (11/18 に、SI フォーラムブースで展示)
2. プロモーションビデオ (フルバージョン、SNS バージョン)
3. 公式ホームページ
4. A4 パンフレット 2000 部
5. Readyfor のプロジェクトページ (18 件の新着情報含む)
6. Readyfor での総額 2,427,000 円の支援金
7. THE BRIDGE の特集記事
8. 3ヶ年事業計画書 A4、20 ページ

(様式)

2/2

収支計算書
(2017年8月1日から 2017年12月31日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	助成金 未調達額 (D = A-C)	助成金 返還見込額 (E = A-B)
日本財団助成金収入	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0	0
クラウドファンディング収入	-	1,979,770	1,979,770	-	-
自己負担	1,590,000	833,883	833,883	-	-
収入合計	6,590,000	7,813,653	7,813,653	0	0

支出の部

(単位:円)

科目	予算額 (a)	決算額 (b)	支出済額 (c)	未払額 (d = b-c)
役員報酬	1,800,000	840,000	840,000	0
業務委託料	2,160,000	4,895,470	3,574,955	1,320,515
接待交際費	-	157,731	157,731	0
旅費交通費	80,000	107,880	107,880	0
通信費	-	85,536	85,536	0
備品・消耗品費	2,300,000	1,474,698	1,474,698	0
車両費	200,000	9,000	9,000	0
リース料	-	117,522	117,522	0
租税公課	-	115,150	115,150	0
支払手数料	50,000	3,888	3,888	0
会議費	-	6,778	6,778	0
支出合計	6,590,000	7,813,653	6,493,138	1,320,515